

はやま もり 麓山の杜みどり通信

発行元 公園振興事務所「とんがりふれあい館」
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL924-2194 FAX924-2195

麓山の杜 2月のイベント

◆「いけばな教室（池坊）」3回目

日時：③2月 9日(土) 10:30~12:30

場所：とんがりふれあい館

定員：15名（事前予約要）

参加費：1回 1,500円

◆園芸教室「ひなまつり生花アレンジ」

日時：2月23日(土) 10:30~12:30

場所：とんがりふれあい館

定員：15名（事前予約要）

参加費：2,000円



「いけばな教室（池坊）」2回目 （教室風景）



ガーデニング ワンポイント

雪の中でも春は近づいています

今年は雪が多く冬らしい景色となっています。しかし樹木に雪が重いほどのままでは、冬景色を愛でるところではなく枝が折れてしまいますので雪下ろしが必要です。ほどほどに降ってほしいとは思いますが、自然が相手なのでどうにもなりません。しかし樹木はこの寒い時期のなかでも少しずつ芽をふくらませていきます。

【水やり】 雪もあるために灌水は今のところは必要ありません。ただし鉢植えや雪が消え乾燥が続くときは灌水が必要です。樹木は春の芽吹きのためには水分が必要です。水やりは暖かい日の午前中にあげ、その水が凍らないようにします。

【肥料】 樹木はこの時期が寒肥のシーズンです。これからの時期は醗酵済みの骨粉入り油粕などの緩効性有機質肥料がむきます。根の先端近くを数か所、壺穴状に掘りそこに肥料を入れて埋め戻します。冬の間に行う寒肥で春先の芽出しが違います。粘質土の土良には冬場の天地返しが土を軟らかくします。天地返しとは土壌を反転耕起することです。土が凍ることによって細くなります。その時に堆肥や腐葉土を混ぜ込むとさらに良くなります。粘質で困っている方は行ってみる価値があります。

【病害虫防除】 この時期はカイガラムシ、アブラムシなどの防除が厄介な害虫の駆除に適している、石灰硫黄合剤やマシン油乳剤などのこの時期しか使用できない薬剤の散布時期です。石灰硫黄合剤は病気にも効果があります。ただし石灰硫黄合剤はアルカリ性薬剤の為に臭いが強く体にも刺激が強く、また金属なども腐食させたりする薬害もありますので使用方法を順守しなければなりません。ただ安価で効果があり

H24.9月の「ハツミ講習会」で鉢植えしたものです。



古くから使用されている薬剤です。また越冬している害虫の卵などは見つけ次第、薬剤に頼らず退治します。

【剪定】 この時期は常緑樹広葉樹を剪定することは控えます。寒さによって春の芽吹きが悪くなり枯れてしまう事もあります。マツ類は枝透かしなどをしてさっぱりとさせます。落葉樹の強い剪定はこの時期に行います。ただし今年の花芽が出来ている樹木は注意しないと花芽まで切ってしまう。またカエデ類はすでに水分を上げていますので剪定は控えます。行くと切り口から樹液が出て樹勢を弱めてしまいます。落葉樹といっても総て同じわけではありません。また剪定作業は季節に応じた強弱が大事です。剪定を強く行くと樹木は風邪をひいてしまいますよ。また切り口は病原菌の侵入を防ぐために癒合剤の塗布が必要です。

【植え替え】 とくに常緑広葉樹は寒さの害を受けやすいために行いません。良い植栽時期は春の彼岸頃です。落葉樹は落葉しているこの時期が適期です。ただし厳寒期は避けます。ただカエデ類は剪定と同じく行いません。針葉樹は適期ではありませんが十分に可能です。移植のコツは根鉢をなるべく大きくとって土と根がばらけないようにすることです。

意外と知らない植物の世界

病虫害は毎年発生する一般的な種類もあれば、今まであまり見かける事がなかった種類が発生する場合があります。生垣に多く使われているセイヨウベニカナメモチの件ですが、皆さんは葉の色が変わっている場合や落葉して枯れてしまった場合を見かけた事はありませんか？ ごま色斑点病による症状です。日本に自生していたカナメモチはこの病気に弱く植えられる事が少なくなりました。そこでこの病気に耐性のあるセイヨウベニカナメ（レッドロビン）が変わって植えられるようになりました。少し以前ですと新芽の紅葉の美しさに生垣のほとんどがセイヨウベニカナメという状態でした。しかしここ数年この症状が多く見られ、ほとんどが罹病しているという状態です。この理由や育ちすぎるとの事で近頃は少なくなってきました。また皆さんは近くの山林のコナラなどの落葉樹がほとんど枯れてしまった状況を見かけませんか？ 田村市などの山林で発生していますし、公園や個人の庭でも多くの樹種で発生しています。樹皮にびっしりと皮がはったようにとても小さな虫がついています。カツラマルカイガラムシによる被害です。これも近頃急に多く見られる害虫です。気候などの環境条件の変化による発生なのでしょうか。これからも注視していく必要があります。

街で見かけた植物

マンサク

マンサク科マンサク属の落葉性中低木
春先に先ず咲くというところから、マンサクと呼ばれるようになったとも言われています。香りもあり早春をかざる野趣あふれる樹木です。この写真はシナマンサク系の赤色の品種です。1月31日に撮影しましたが、もうすでに開花間近の状態です。雪が深く積もっていても春は着実にやってきています。

